初雁自由政令会
川越市議会議員

小林 のりこ

議会活動報告　2024年1月4日発行
鳥の眼と小さなアンブレラ Vol.3

経歴
川越市生まれ、川越双葉幼稚園
川越小学校、仙波小学校、川越第一中学校
浦和第一女子高等学校
早稲田大学教育学部
あけぼのホール代表、元尚美学園大学講師
NPO法人アートバーブズフォーラム副理事長

現在
無所属　会派：初雁自由政令会
文化教育常任委員会
介護保険事業計画等審議会
都市計画審議会、社会福祉審議会
図書室委員会副委員長

●「広い視野や国際感覚を持ち川越の魅力を発信できる英語教育の推進」について

令和5年第5回定例会では「ふるさと学習」と「英語力の向上」を組み合わせ、川越の魅力を発信できる英語教育を推進することについて、一般質問しました。

今後、グローバル化が進むなか、どのような職業に就いても外国語が様々な場面で必要とされる可能性があります。児童・生徒にとって、国や郷土が育んできた伝統や文化を基に、広い視野を持ち、自分の考えや気持ちを英語で伝えていく力をつけることは重要です。

しかし、日本の英語能力指数ランキングは世界113ヵ国中87位 (EF EPI 2023)と下がって、若い世代における英語能力の低下が顕著です。そこで、身近に観光資源があり多くの外国人観光客が訪れる、また外国人の留学生が身近に多くいる、外国人と接しながら、自然に英語の勉強が楽しくなるような形での教育効果が期待できる、このような川越の素晴らしい地域特性を教育の中で活かせないかと考えています。

広い視野や国際感覚を持つ児童生徒の育成のためには、まず地域に誇りと愛着を持つことも重要だと考えています。自らの文化や身の回りのことを知り、それを伝える。英語科だけでなく、社会科の視点でも観光資源の現状について十分に学ぶ機会を増やし、地域が抱える課題解決について考えることができたら素晴らしいと思います。

市の財政の面からも、住みたい地域、移住したい地域として川越市が選ばれることは重要ですが、それには、教育が重要な要素の一つと考えます。英語教育の現状から伺います。

第1問：国が目指している英語教育はどのようなものか。

回答：国の第4期教育振興基本計画の中では、施策の成果を図る指標として、英語力について、中学校卒業段階では、実用英語技能検定3級取得程度の力を持っているとされるCEFR-A1レベル相当以上、高校卒業段階では、実用英語技能検定準2級取得程度の力を持っているとされるCEFR-A2レベル相当以上を達した中高生の割合を、5年後までに6割以上にすることが示されております。

第2問：外国語によるコミュニケーション能力をどのように育成しているのか。

回答：各学校では、学年に応じて、学習指導要領に示されている「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」と5つの領域について、様々な場面や状況等を設定した言語活動を行うことで、自分の考えや気持ちなどを適切に表現できるコミュニケーション能力を育成しております。

第3問：指標となる中学校卒業段階で、CEFR-A1レベルの子供たちの割合の推移は。

回答：中学校卒業段階で、CEFR-A1レベルの子供たちの割合について。直近3年間の推移は、
令和元年度は全国で42.0%、本市では41.3%
令和3年度は全国で46.9%、本市では46.1%
令和4年度は全国で49.2%、本市では54.5%　となっております。

令和5年第5回定例会（12月定例会）一般質問の様子

令和5年第5回定例会
小林 のりこ 市議
登壇動画はこちら！

本議会の録画映像をご覧いただけます

次回議会（2024年2月）の傍聴を歓迎いたします。

第4問目：本市の英語教育の課題について伺いたい。

回答：CEFR-A1レベル相当以上の生徒の割合は、毎年上昇しているものの、第三次川越市教育振興基本計画における目標の70%には、まだ到達しておりません。特に「話すこと」の領域に関わる言語活動において、児童生徒が活発に自分の思いを英語で話したり、聞いたりする機会を充実させる必要があると考えております。

第5問：本市で行っている外国語活動、外国語科研究委員会で検討していることは。

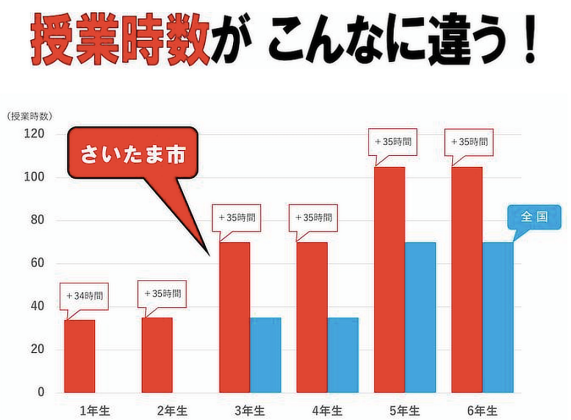
回答：外国語科研究委員会では、小中学校の英語教育を専門とする校長及び教頭の代表者、並びに外国語を担当する教員の代表者6人で組織しています。研究会で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方」について検討し、授業モデルを作成、授業の方策や、英語指導助手の効果的な活用方法等について検討し、アイディア集やワークシートなどを作成し、各学校に配布、周知しております。

第6問：本市では英語を母国語とする英語指導助手を授業の中でどのように活用しているのか。

回答：英語指導助手が、教師とのやり取りや発表の例文を児童生徒に行ってみせたり、発音のモデルとなり、児童生徒の発音を指導したりしております。また、児童生徒が学んだ表現を使って、英語指導助手と直接やり取りする場面を設け、英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを実際に体験できるようにしております。その他、児童生徒の発言や作文等の内容に対して助言したり、児童生徒との会話テストを行う際の相手役を行ったり、授業が実際のコミュニケーションの場面になるように英語指導助手を活用しております。

第7問：教員や英語を母国語とする英語指導助手の力を高めるための取り組みについては。

回答：教員については、大学教員等から外国語活動・外国語科の指導に関する専門的な知識・技能を学ぶ研修会や英語指導助手を活用した模範的な授業を参観したり、研修会を実施しております。また、外国語活動・外国語科研究委員会で作成した教材・指導資料等を活用したり、直接教員に指導をしたりしております。英語指導助手のうち直接雇用の者については、教育センターにおいて、毎月1回、研修会を実施、業務委託の助手については受注業者において資質向上を図っております。加えて、指導主事等が全市立学校に英語教育推進訪問を実施参観し、指導助言を行っております。



さいたま市と全国の英語授業時数の比較（さいたま市HPより）

第8問：本市で地域に誇りと愛着を持つ教育にはどのように取り組んでいるか伺いたい。

回答：ふるさと学習として、全市立中学校で総合的な学習の時間を中心に各地域をフィールドとして、地域の魅力を広く深く知る活動や地域と協働して行う活動等の探究的な学びに取り組んでおります。

第9問：さいたま市では、「グローバル・スタディ」という独自の英語教育を推進して教育効果をあげていますが、小1から中3まで一貫した教科で、単なる語学学習に留まらず、よりグローバルな視点を持った生徒を育成しています。自国の文化を発信したりする能力を社会や他の科目と総合的に学ぶといったもので、テキストも英語科の先生が皆で作っています。中学3年生でCEFR-A1レベルの生徒が86.6%に達するということで、川越市の54.5%と比べると大幅に高い達成率になっており、全国の他の自治体からの視察も多く、4市が導入に向けて検討をしています。川越市とも「グローバル・スタディ」は親和性が高いと思いますが、本市の考えは。

回答：さいたま市が「グローバル・スタディ」に取り組むことで、生徒の英語力向上に成果をあげていることについては承知しております。本市としては、授業時間数の確保など、導入するには課題があると考えておりますが地域の魅力を英語で発信していく力を育成することにおいて、参考となる点があるものと捉えております。

第10問：他市の参考になる先進的な取り組みは?

回答：現在、県内で熊谷市や川口市が全市立中学校が導入している「ラウンドシステム」は、教科書の全単元のストーリーを年間で4～5巡繰り返し活用し、生徒がコミュニケーション中心の活動に取り組むことで「聞く」「読む」「話す」「書く」ことの英語4技能の使用量が増えることに伴い、英語力を伸ばす生徒が多くいることが特徴であるとされております。他市の英語教育の指導方法や効果等について調査研究しつつ、本市の実態に合った英語教育の構築に向けて進めていきます。

第11問：市立川越高等学校の英語教育における国際交流についての取り組み状況は。

回答：市立川越高等学校では、英語宿泊研修として希望者を募り、福島県岩瀬郡天栄村にあるブリティッシュヒルズにおいて、オールイングリッシュの2泊3日で研修を実施しています。70種類以上の研修講座から英語の体験活動を行い、英語によるコミュニケーションを学んでいます。姉妹友好都市のノースセーレム高校との間で1年ごとに相互訪問も実施しており、今年度は8名の生徒が参加しました。

第12問：本市における青少年の英語交流はどのようか。及び効果についても伺いたい。

回答：本市の海外姉妹都市であるアメリカのセーレム市とドイツのオッフェンバッハ市に毎年交互に中学生を派遣する「海外姉妹都市訪問川越市中学生交流団」事業を実施。現地に滞在する1週間は、全泊ホームステイでホストファミリーとの会話は主に英語となります。本事業の事前研修では、地元の方々と積極的にコミュニケーションを取ることができるように、本市の基本的情報や文化についても、改めて学ぶ機会を設けています。
昭和62年の開始以来、30年以上継続して実施しており、

これまでに500名を超える中学生が海外姉妹都市交流を経験してきました。令和2年度、派遣生440名を対象に実施した追跡アンケート調査では、84%の派遣生が「派遣事業での経験が、その後の生活や就職・進路の選択等に影響を与えた」と回答しています。これら派遣生をパネリストに迎え、令和3年度に「中高生シンポジウム2021　Globalな未来へ　はばたく君へ」、令和4年度には「市制施行100周年川越市姉妹友好都市記念式典&シンポジウム」を開催し、現在グローバルに活躍する派遣生たちの体験談や、将来のキャリア形成や多文化共生の大切さについて意見交換を行いました。これらの取り組みが評価され、「自治体国際交流表彰　(総務大臣賞)」を埼玉県下で初めて受賞しました。

第13問：川越や日本の文化歴史を英語で発信することができる人材育成の取り組みについては。

回答：小江戸川越観光親善大使である「NPO法人英語の通じる街実行委員会」が主体となり、「第4期川越市英語ボランテイアガイド育成講座」と題し、広報等で参加者を募ったうえで、16名の方が参加されました。今年の夏から秋にかけて行われた全14回の講義には、座学と実地の研修が組み込まれ、実地の研修の際には観光所管施設の使用や外国人観光客が数多く訪れる川越まつりでは、その成果を発揮させるべく川越駅、本川越駅に設置された臨時案内所において英語による案内の場の提供など、様々に人材育成に係る取り組みを支援しています。

第14問：広い視野や国際感覚を持ち、地域の誇りや自分の思いを発信できる児童生徒の育成について。

回答：本市においても、これまでより多くの外国人が訪れ、外国語を用いて他者とコミュニケーションを図る資質・能力を育成することは、ますます重要になっています。小・中・高等学校の外国語活動・外国語科の教職員の指導力を向上させ、各学校段階の学びを円滑に接続できるようにし、英語力を系統的に育成していくとともに、児童生徒が、英語を学ぶ楽しさや意義を感じられるような授業となるよう、工夫と改善を図ってまいります。また、児童生徒が、ふるさと川越への愛着や誇りをもち、地域に貢献する心を育むために、今後も川越市ふるさと学習を一層推進するとともに、さらには、地域人材の活用や姉妹都市交流など海外の学校と連携することで、児童生徒が広い視野から国際理解を深め、川越の魅力を積極的に発信できる機会の充実を図ってまいります。

○ まとめ

「ふるさと学習」と「英語力の向上」を組み合わせ、川越の魅力を発信できる英語教育を推進することで、小中学生や高校生、大学生がそれぞれのレベルで、自分の住んでいる地域をより深く理解し、地域の問題を自身のものとして捉えることで地域の活性化に寄与できるようになります。また、将来的にはこれらの学びを持った人材が川越市や周辺の観光資源を海外に発信し、インバウンド観光を促進する役割を果たすことが期待できます。

小学校と中学校での学びに加え、高校との連携を通して、体系的な地域の魅力や文化、歴史などを学ぶグローカルな英語教育を推進することで、観光立国を支える人材の基盤が広がります。市立高校において川越の魅力を発信できる「観光ビジネス・起業教育」の創設を提案していきます。

また、霞ケ関など多くの留学生が在籍する大学を有する地区では、外国人留学生と地域住民の交流を通じて、地域に魅力を感じさせ、卒業後も住みたいと思える環境を整えることが重要です。外国語教育だけでなく、地域全体の魅力を発信できる場所が増えることで、多様な国際交流や異文化交流が盛んな街として認知されるでしょう。

川越市でも、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むコミュニティ・スクールがはじまっています。学校運営に地域の特色ある取り組みを積極的に生かし、こういった活動ができたらと思います。地域や民間団体と小、中、高等学校が連携した地域活性化につながる国際交流を進めていけたらと思います。地域の特色を活かしたコミュニティ・スクールや地域との連携を通じて、地域活性化に寄与する国際交流を進め、川越の魅力を一層広く知らしめることが望まれます。

● 都市計画審議会：次の川越市マスタープラン作成に向けて

都市計画審議会では、川越市マスタープランの改定が話し合われています。コンパクトシティと防災に強いまちづくりの2つの課題について、川越市の目指すところが議論されています。

高齢者世帯にとっては、買い物や病院などが近くにあることが重要なので、交通の便の良い駅周辺などを中心にコンパクトシティを作る必要があります。一方で、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける開発の抑制や移転の推進など、安全なまちづくりが求められています。

そこでは、誰でも移動しやすい公共交通の充実を目標に、特性に応じた持続可能な交通ネットワークの構築が必要です。また、デマンド型交通によるバスルートの整備も重要であり、その際には人だけでなく、地場野菜なども運べるような改革も提案してまいります。

北部観光市街地では、郊外型の駐車場の整備、蔵の街商店街の観光拠点の混雑を避けるための交通対策、商業観光地と住居地域の住み分け問題など、様々な課題に対応しつつ、川越らしい伝統的な街並みの保全や落ち着いた住宅地景観の形成を提案してまいります。

川越駅、本川越駅、川越市駅の3駅周辺については、それぞれの顔を活かすような都市計画が必要と考えます。また、歴史的特性も生かした川越らしい景観と安全なまちづくりを提案していきたいと思います。

● コラム

音楽を通してシニアの居場所づくりが見えてきます。新宿町5丁目の自治会の協賛をいただき新宿町「ゴゴサロン」の拡大風景です。どなたでも参加できる機会をと、場所を増やして居場所をつないでいこうという計画を始めました。オリジナルの『新宿町の歌』を歌ったり、パンと紅茶で、自己紹介していただいたり、初めて参加されたシニアの方々から「とても楽しい会でした」と言っていただき、地域のつながりの機会は重要であると改めて思いました。

尚美学園大学講師時代に川越総合高校との高大連携事業「里山音楽祭」としてお付き合いを初めて10年。この度めでたく世界農業遺産となった「武蔵野落ち葉堆肥農業」の認定記念式典が開催されました。農業経営が大規模化、効率化を目指す中、窒素やリンが大量に放出され、地球温暖化が進む原因になっています。かつて、武蔵野は関東ローム層の塵に覆われた不毛な地域でしたが、1600年代の江戸の人口増加による食糧需要に応えるため、屋敷地、畑地、平地林がセットになった細長い土地が計画的に開拓され、豊かな大地が作られています。

地域の元気な女性シニアの方達中心に、毎月1回、近くの川越八幡宮の境内と、自治会館のお掃除をしています。今日は木枯らしが吹き始めましたが、朝はまだそんなに寒くなく、心も、枯れ葉もきれいに掃き清められました！通りすがりの方が声をかけてくれます。楽しみは終わってからのお茶会です。

議会報告第2号で仮称新宿町1丁目広場整備事業用地の問題を取り上げましたが、旭町1丁目公園の相談があり、地域の方々が毎日手入れを行っていることから、シルバー人材センターで行っている清掃などを地域に委託できることになりました。

市政について皆様のご意見・ご要望をお聞かせください！

小林 のりこ事務所

〒350-0045 埼玉県川越市南通町5-5　TEL/FAX: 049-223-2360

URL: https://kobayashi-noriko.com/　E-mail: kobayashinoriko23@gmail.com

Facebook　X(旧:Twitter)　YouTube